

環境経営レポート

2025年度



作成・発行日付:

2026年6月8日

 **信濃化学工業株式会社**

〒381-0045

長野県長野市桐原 1-2-12

TEL:026(243)1115 FAX:026(243)1520

URL:<https://www.shinano-kagaku.co.jp>

① 組織の概要

名称	信濃化学工業株式会社	
代表者名	代表取締役 小野 大輔	
所在地	本社及び本社工場 : 長野県長野市桐原 1-2-12 第二工場 : 長野県長野市桐原 2-4-1 第三工場 : 長野県長野市桐原 1-2-12 長野営業所 : 長野県長野市桐原 1-2-12 東京営業所 : 東京都板橋区中丸町11-2 ワコーレ要町ビル12階 大阪営業所 : 大阪府大阪市淀川区西中島6-7-3 第6新大阪ビル11階 札幌営業所 : 北海道札幌市豊平区美園三条8 カーサAT美園38 201号 東北営業所 : 宮城県仙台市宮城野区高砂1-8-3 ロイヤルコート高砂103号 九州営業所 : 福岡県福岡市博多区東雲町3-3-1 第5入江ビル東雲式番館5階	
環境管理責任者	上野 清登	
担当者連絡先	EA21事務局：宮原 秀夫 TEL：026(243)1115	
事業の概要	プラスチック製品の製造・販売 ・業務用プラスチック製食器の製造販売 ・環境関連商品の製造販売 ・工業部品の受注及び生産	
事業の規模	資本金 4,800万円 設立 1948年4月 従業員数 98名	
エコアクション取り組み事業年度	4月～3月	

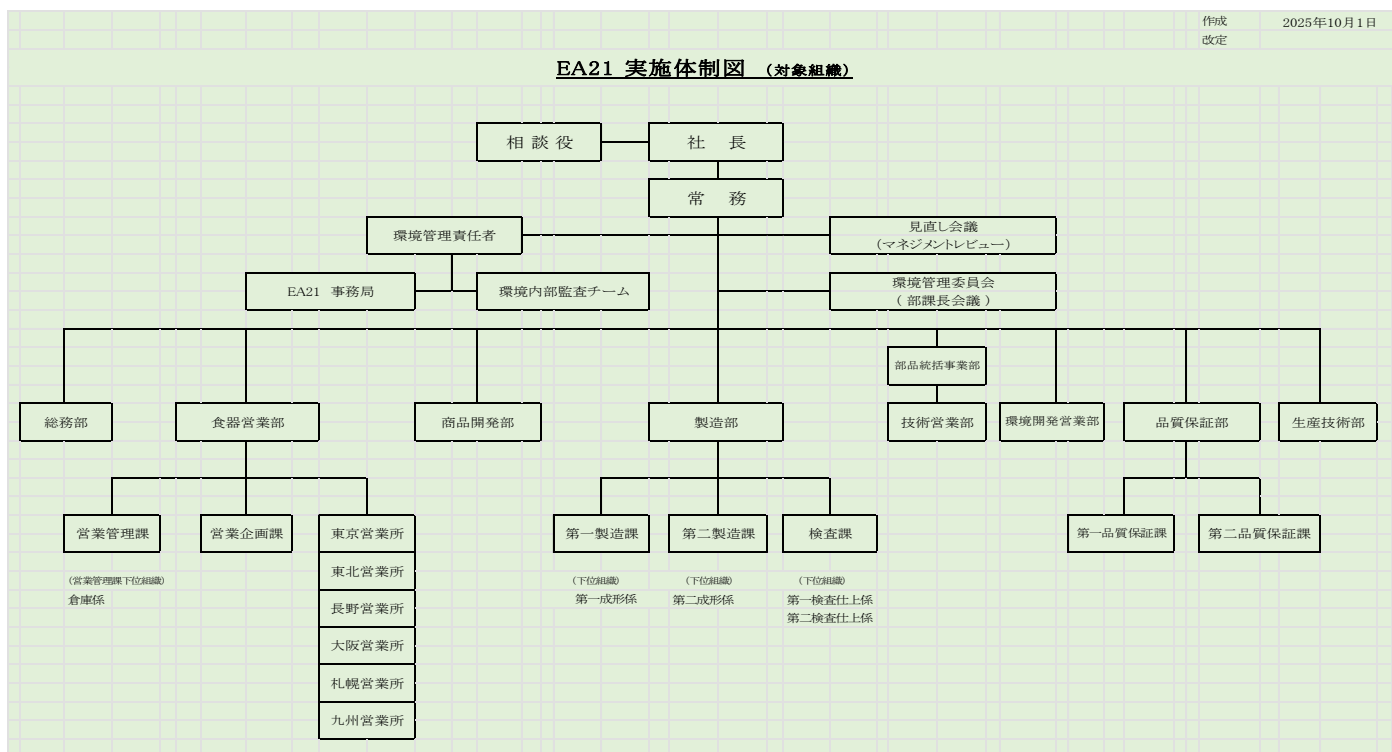


② 対象範囲

登録事業者名 信濃化学工業株式会社

対象事業所 本社及び本社工場・第三工場
第二工場
長野営業所
東京営業所
大阪営業所
札幌営業所
東北営業所
九州営業所

(建物床延べ面積 : 3,842.26㎡)
(建物床延べ面積 : 3,727.56㎡)



実施体制図(対象組織:全組織)

事業の概要

プラスチック製品の製造・販売

業務用プラスチック製食器の製造販売

環境関連商品の製造販売

工業部品の受注及び生産

レポートの対象期間

2025年4月～2026年3月

レポートの発行日

2026年 6月 8日



環境方針

信濃化学工業株式会社は「社業の発展と社会の繁栄に貢献する真に働きがいのある会社」の企業理念のもと、お客様に真の満足と感動を頂ける製品の創造とサービスの提供を続けることを基本に、オリジナル業務用食器類並びに森林事業を主体とした環境関連商品の企画・開発から製造及び販売を主体にした事業活動を推進しています。

また各種産業を支える工業用部品関連においても受注及び生産をしています。

当社のこれらの事業活動が、社会環境や自然環境と密接に関わり合っていることを認識すると共に、「プラスチックのスペシャリスト」としてあらゆるプラスチックに挑戦し、技術向上を図りながら、環境の保全に取り組んで参ります。

従って事業活動のすべての領域で自然環境との調和と地域社会の共生を目指し、以下の行動指針のもと事業活動を行ってまいります。

1. 事業活動における環境への影響を認識すると共に、当社を取巻く環境変化を考慮して定期的に環境経営システムの継続的改善を図り、汚染の未然防止、持続可能な資源の利用を推進します。
2. 環境パフォーマンスを向上させるための環境経営システムの継続的改善を図ります。
3. 環境目的および目標に次の重点項目を設定して取組み、定期的に見直しを行います。
 - 1)環境に配慮したオンリーワン商品の開発
 - 2)循環型社会への貢献(3Rの推進と再資源化による商品の開発提供)
 - 3)カーボンニュートラルの達成に向けた活動
 - 4)環境負荷物質の適切な管理及び代替削減
4. 当社に関係する環境関連法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
5. 環境方針を全社員に周知すると共に、一般にも公開します。

令和6年6月3日

信濃化学工業株式会社

代表取締役社長 小野 大輔

④ 環境目標

環境目標(3ヵ年)一覧表

環境目的	2025年度	2026年度	2027年度
二酸化炭素排出量の監視と抑制	① 生産不良に関わる二酸化炭素排出量の削減（数値は年間排出量の目標値とし、数値内を目指す）		
	<ul style="list-style-type: none"> ・第一製造 12,000kg-CO2 ・第二製造 4,700kg-CO2 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一製造 11,950kg-CO2 ・第二製造 4,600kg-CO2 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一製造 11,900kg-CO2 ・第二製造 4,500kg-CO2
	【生産・受注状況の変化により「2025-2027年の三ヵ年計画」を見直し済み】		
二酸化炭素排出量の監視と抑制	② 業務改善による時間外労働時間の抑制		
	※適切な労働環境を実現し、無駄を排除する		
	<ul style="list-style-type: none"> ・生産100万円当りの購入電力消費量 <p>2,000kwh以内</p>	1,950kwh以内	1,900kwh以内
二酸化炭素排出量の監視と抑制	③ 社用車における燃料費の抑制		
	※エコドライブ推進と営業活動の効率化		
	<ul style="list-style-type: none"> ・100km走行当りの燃料消費量 <p>5.7L以内(燃費17.5km/L相当)</p>	5.65L以内(燃費17.7km/L相当)	5.6L以内(燃費17.9km/L相当)
廃棄物排出量の監視と抑制	① 生産不良に関わる廃棄物排出量の削減（数値は年間排出量の目標値とし、数値内を目指す）		
	<ul style="list-style-type: none"> ・第一製造 3,700kg ・第二製造 3,400kg 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一製造 3,650kg ・第二製造 3,350kg 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一製造 3,600kg ・第二製造 3,300kg
	【生産・受注状況の変化により「2025-2027年の三ヵ年計画」を見直し済み】		
廃棄物排出量の監視と抑制	② 廃棄物の分別の徹底とリサイクル化の推進		
	※ 廃棄物を出さない事業活動の推進		
	<ul style="list-style-type: none"> ・売上100万円当りの廃棄物排出量 <p>18.0kg以内</p>	17.5kg以内	17.0kg以内
廃棄物排出量の監視と抑制	③ フードロス対策の推進		
	・社内催し等にて食べ残し無しを徹底する		
水使用量の監視	① 定期的確認により監視、測定を行う		
水使用量の監視	<ul style="list-style-type: none"> ・配管、工場設備の漏水等異常の監視 ・水の使用量の確認 		
グリーン購入の推進と実施	① 購入品のグリーン購入の推進		
グリーン購入の推進と実施	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮製品への代替の検討・実現 		
化学物質使用量の管理	① 管理された状態の維持継続		
化学物質使用量の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・当社で使用する化学物質について、その種類、使用量、使用方法、使用場所、保管量、保管場所等を経時的に把握し、記録・管理する 		
環境配慮に関わる取り組み	① 環境に配慮した新製品開発		
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した新製品開発(生分解性樹脂を採用) 		
	年間1件以上	年間1件以上	年間1件以上
環境配慮に関わる取り組み	② 環境負荷低減策の検討～実施		
	<ul style="list-style-type: none"> ・当社の事業活動に関連して、「環境負荷低減」を検討・実現 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・負荷低減策実現 ・循環型商品開発1件 	<ul style="list-style-type: none"> ・負荷低減策実現1件 ・「循環型事業化」推進 ・太陽光発電システム導入検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・負荷低減策実現1件 ・「循環型事業化」推進

⑤ 環境活動計画

2025年度 環境活動計画 ～ 目標を達成するための取組み ～

環境目的	環境目標	取組み
二酸化炭素排出量の監視と抑制	<p>① 生産不良に関わる二酸化炭素排出量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一製造 12,000kg-CO2 ・第二製造 4,700kg-CO2 <p>② 業務改善による時間外労働時間の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産100万円当りの購入電力消費量 2,000kwh以内 <p>③ 社用車における燃料費の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> ※エコドライブ推進と営業活動の効率化 ・100km走行当りの燃料消費量 5.7L以内(燃費17.5km/L相当) 	<p>【第一製造/第二製造 共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産不良に関わる「不良率」の削減策の実施 ≪生産不良の削減(不良対策)、QC活動推進 小集団活動推進、生産の効率化策の検討等≫ ・業務改善提案の実施(DX化推進等) ・生産工程で「最適設備使用」推進 ・生産の効率化の実施(人海戦術から機械化) ・再生可能エネルギー(太陽光発電システム)運用 ・エコドライブの推進と実施 ≪アイドリングストップ・急加速の防止≫ ・効率の良い営業活動(経路)の実施 ・随時「最適な車両」の選定・導入
廃棄物排出量の監視と抑制	<p>① 生産不良に関わる廃棄物排出量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一製造 3,700kg ・第二製造 3,400kg <p>② 廃棄物の分別の徹底とリサイクル化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 廃棄物を出さない事業活動の推進 ・売上100万円当りの廃棄物排出量 18.0kg以内 	<p>【第一製造/第二製造 共通事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産不良に関わる「材料消費量」削減策の実施 ≪不良対策(QC活動・小集団活動)推進等≫ ・「廃棄物を出さない」事業活動の推進 ・分別の徹底による資源ゴミのリサイクル化 ・「歩留率」の向上策の実施 ・廃棄物抑制策の検討・実現 ・B級品の再利用(商品サンプルとして活用)
水使用量の監視	<p>① 定期的確認により監視、測定を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水使用量の把握と配管設備の漏水監視の実施 異常確認時は、速やかな措置の実施
グリーン購入の推進と実施	<p>① 購入品のグリーン購入の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮製品への代替検討の実施 代替可能なモノは切替えを実施 ・環境含有物質調査、及び衛生評価試験の実施
化学物質使用量の管理	<p>① 管理された状態の維持・継続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当社で使用する化学物質について、その種類、使用量、使用方法、使用場所、保管量、保管場所等を経時的に把握し、記録・管理する
環境配慮に関わる取組み	<p>① 環境に配慮した新製品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新製品開発(生分解性樹脂を採用) 年間1件以上 <p>② 環境負荷低減策の検討～実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業活動関連、「環境負荷低減策」 ・循環型商品開発 1件 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した製品開発の実施 ≪新たな市場開発を考慮する≫ ・環境負荷の大きい課題の対応策推進 ≪リサイクル材料の活用・商品化≫ ・廃棄物引取り先と意見交換 ≪リサイクル材料の積極活用の検討≫

⑥ 環境目標の実績 (1)

2025年度 環境活動実績及び活動状況

環境目標	実績及び活動状況	評価
<p>二酸化炭素の排出量の監視と抑制</p> <p>① 生産不良に関わる二酸化炭素排出量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一製造 12,000kg-CO2 ・第二製造 4,700kg-CO2 	<p>・年間での実績値</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一製造 実績 ※ 10,821kg-CO2 ・第二製造 実績 ※ 3,419kg-CO2 <p>(評)生産工程にて「不良対策」の取り組み推進。一定の成果に繋がる。社内OJTの推進。</p>	<p>(個) (全体)</p> <p>◎ ◎ ◎</p>
<p>② 業務改善による時間外労働時間の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産100万円当りの電力消費量 2,000kwh以内 	<p>(前年比)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務改善活動 ※ 年間改善提案件数 115件 (+38件) ※ 生産100万円当り1,883.8kwh (-7.7%) <p>(評)目標を大きく上回る成果となった。積極的な「業務改善提案」が功を奏したか。</p>	<p>◎ ○ ○</p>
<p>③ 社用車における燃料費の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> ※エコドライブ推進と営業活動の効率化 ・100km走行当りの燃料消費量 5.7L以内(燃費17.5km/L相当) 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブの推進と営業活動の効率化 ※燃費実績 17.31km/L <p>(評)目標値に近い実績を実現できました。昨年とほぼ同等の実績であるが、改善傾向です。</p>	<p>○</p>
<p>廃棄物の排出量の監視と抑制</p> <p>① 生産不良に関わる廃棄物排出量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一製造 3,700kg ・第二製造 3,400kg 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画と実績 ・第一製造 実績 ※ 3,872kg ・第二製造 実績 ※ 2,552kg <p>(評)ほぼ目標並みの実績を実現できました。</p>	<p>△ ○ ○</p>
<p>② 廃棄物の分別の徹底とリサイクル化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 廃棄物を出さない事業活動の推進 ・売上100万円当りの廃棄物排出量 18.0kg以内 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物抑制策の実施による廃棄物抑制 ※全社で、305.9kg削減に成功 ※売上100万円当り 19.0kg <p>(評)前年比でマイナスの実績となりました。更に効果のある改善策が必要です。</p>	<p>◎ △ ○</p>
<p>③ フードロス対策の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会社で催す飲食会において、フードロスを最小に抑制するため、終了前に声掛けを行い、食べ残し無しの徹底を図る <p>(評)各回、食べ残しを最小で抑えることができた。</p>	<p>○</p>
<p>水使用量の監視</p> <p>① 定期的確認により監視、測定を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・工場内、設備配管とそれ以外の敷地内とに分けて、総務部が監視しました。 <p>(評)期中、異常値は確認されず、最適な状況を実現できました。</p>	<p>○</p>
<p>グリーン購入の推進と実施</p> <p>① 購入品のグリーン購入の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン購入への適合する代替え検討を行いました。 <p>(費用面を考慮し、実現を目指した)</p> <p>(評)費用対効果の課題から、代替え実現は難しい。しかし、切り替え可能なモノが確認された。</p>	<p>○</p>
<p>化学物質使用量の管理</p> <p>① 管理された状態の維持・継続</p>	<p>※化学物質使用部門(第一製造課)が定められた方法により管理された状態が維持されている</p> <p>(評)適切に管理・維持されている。</p>	<p>○</p>
<p>環境配慮に関わる取り組み</p> <p>① 環境に配慮した新製品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新製品開発(生分解性樹脂を採用) 年間1件以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発2点を試作評価(生分解筒号、インシュロックタイ) 更に、苗木用不織布カバーの取り組み実施。実用化に至らず。 <p>(評)環境配慮型商品の開発が出来ました。</p>	<p>◎</p>
<p>② 環境負荷低減策の検討～実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業活動関連、「環境負荷低減策」 ・循環型商品開発 1件 	<ul style="list-style-type: none"> ・設備更新、導入の検討(第一製造エアコン/第二工場太陽光発電) ・PES・SPS製品を通じた長寿命化・再加熱対応による食品ロス削減への貢献が出来た。 	<p>◎</p>

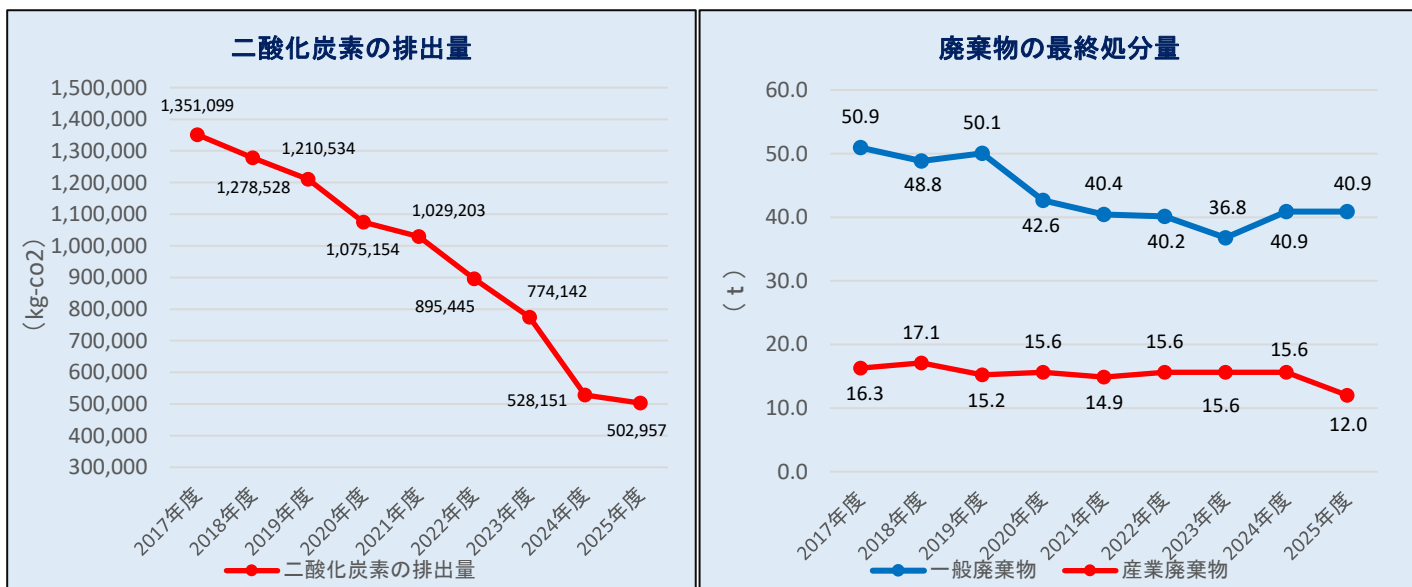
⑥ 環境目標の実績 (2)

環境への負荷の状況(実量)

環境への負荷項目		単位	実績					
			2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
温室効果ガス排出量	二酸化炭素排出量	kg-CO2	1,029,203	895,445	774,142	528,151	502,957	
		(前年対比%)	95.7	87.0	86.5	68.2	95.2	
廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	リサイクル	t	2.6	2.9	9.5	12.6	14.3
		廃棄処分	t	40.4	40.2	36.8	40.9	40.9
		最終処分量	t	40.4	40.2	36.8	40.9	40.9
	産業廃棄物	リサイクル	t	32.2	33.1	36.4	36.8	36.0
		廃棄処分	t	14.9	15.6	15.6	15.6	12.0
		最終処分量	t	14.9	15.6	15.6	15.6	12.0
総排水量	下水道	m ³	1,464	1,268	1,617	3,921	1,945	
水使用量	上水	m ³	1,567	1,334	1,689	3,987	2,537	
化学物質使用量	ホルマリン	kg	1,600	1,770	1,575	1,805	1,575	
	水酸化カリウム	kg	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	メタノール	kg	1,600	1,770	1,575	1,805	1,575	
エネルギー使用量	購入電力	kWh	1,697,229	1,717,796	1,803,053	1,683,198	1,512,422	
	化石燃料	MJ	-	-	-	-	-	
物質使用量	資源使用量	t	612.8	618.6	557.8	645.1	659.3	
	循環資源使用量	t	120.6	128.5	106.4	100.8	145.6	
サイト内で循環的利用を行っている物質等	利用された物質量	t	120.6	128.5	106.4	100.8	145.6	
総製品生産量	製品生産量	t	548.6	561.6	536.7	614.1	628.2	
		(前年対比)	103.0	102.4	95.6	114.4	102.3	
	環境負荷低減に資する製品等	t	43.9	53.3	64.7	179.1	150.0	
	容器包装使用量	t	-	-	-	-	-	

2019年度の電気事業者ごとの調整後排出係数 (株)テプコカスタマーサービス 0.508kg-CO2
 2022年度の電気事業者ごとの調整後排出係数 中部電力ミライズ(株) 2019年度 0.431kg-CO2

環境目標の実績状況の推移

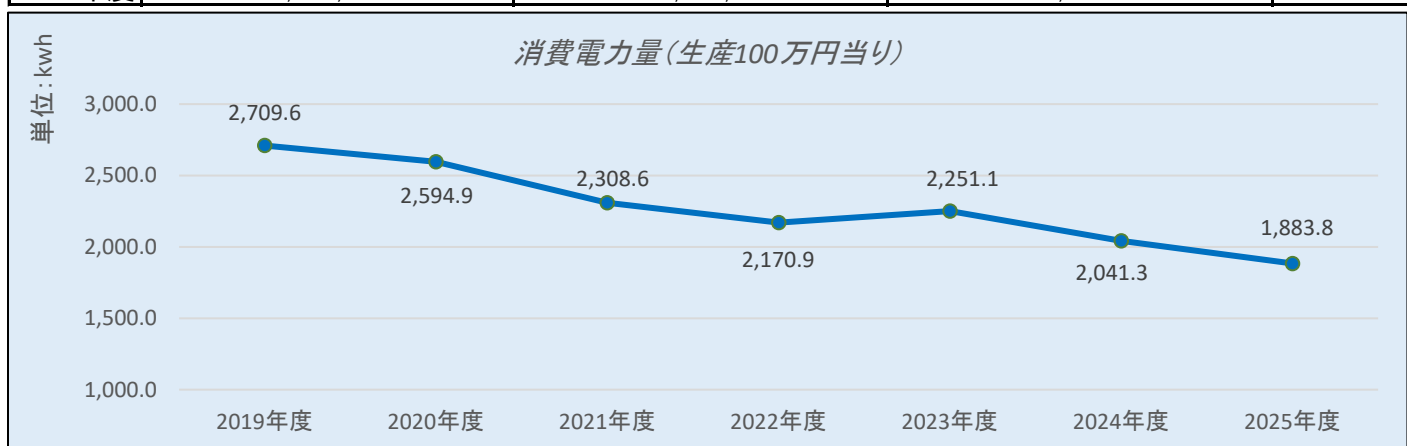


⑥ 環境目標の実績 (2)

環境への負荷の状況(一部、原単位による評価)

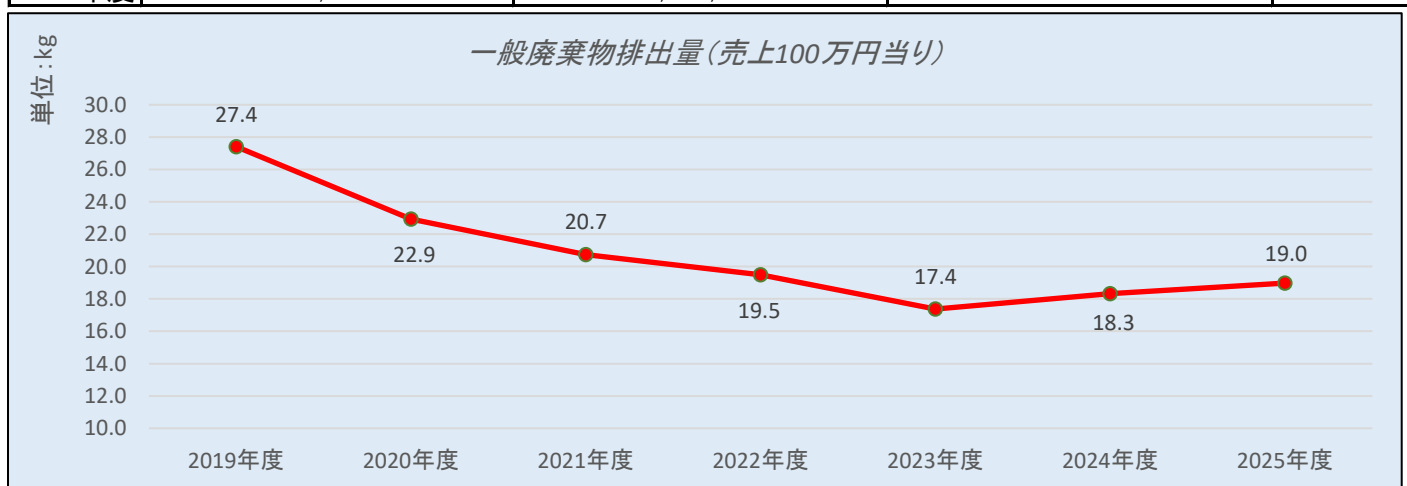
【温室効果ガス排出量に関わる傾向(消費電力)】

	(kwh)	(円)	(kwh)	
	電力消費量	社内生産実績	生産100万円当りの電力消費量	前年比
2019年度	2,034,424	750,807,370	2,709.6	106.77%
2020年度	1,812,783	698,650,041	2,594.9	95.77%
2021年度	1,697,229	735,180,910	2,308.6	88.97%
2022年度	1,717,796	791,304,602	2,170.9	94.04%
2023年度	1,803,053	800,972,571	2,251.1	103.69%
2024年度	1,683,198	824,570,554	2,041.3	90.68%
2025年度	1,512,422	802,854,383	1,883.8	92.28%



【廃棄物排出量に関わる傾向(一般廃棄物)】

	(kg)	(千円)	(kg)	
年度	一般廃棄物 (最終処分量)	年間売上高 実績	売上100万円当りの廃棄物排出量	前年比
2019年度	50,070	1,826,802	27.4	105.09%
2020年度	42,640	1,858,964	22.9	83.69%
2021年度	40,440	1,949,197	20.7	90.45%
2022年度	40,150	2,060,220	19.5	93.93%
2023年度	36,780	2,117,118	17.4	89.14%
2024年度	40,900	2,232,250	18.3	105.47%
2025年度	40,880	2,155,031	19.0	103.53%



⑦ 環境活動計画の取組結果とその評価

2025年度 環境活動取組結果とその評価及び次年度の取り組み計画

環境目標	取組み結果と評価	課題	次年度の取組み
二酸化炭素排出量の監視と抑制	<p>【生産工程に於いて、不良低減を図る】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不良発生に伴う再生産に関わるエネルギー消費の削減を図る。 ※結果として、各製造工程の実績としては、良好な結果となり、目標達成となった。 業務改善を実施して、時間外労働の適正化に努めた。目標を大きく上回る成果となり、業務改善案の提出件数も昨年度を38件上回った。 ※その結果時間外労働時間も抑制出来たと思われる。 展示会出展やセミナー共同開催による協業体制が確立されて、効率の良い営業活動が出来た。 ※運転者に注意喚起を図り、効率の良い営業活動が行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生産量自体の減少 生産体制再構築 QC活動/小集団から成果を生み出す。(全員参加での創意工夫) 付加価値の高い改善提案を生み出すことが難しくなっている。 低燃費車両車の生産停止があり、選定出来る車両が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生産工程における不良低減活動を継続し、再生産に伴うエネルギー消費の削減を図る。 QC活動および小集団活動を通じて改善提案を推進し、省エネルギー活動の定着を図る。 次年度も更に、展示会出展やセミナー開催を増やして、環境経営として効率的な営業活動を推進していく。 最適な営業商用車の選定を行う。
廃棄物排出量の監視と抑制	<p>【生産工程に於いて、不良低減を図る】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産不良に関わる材料消費量の削減から、廃棄物排出量の抑制を図る。 ※結果として第一製造は、僅かに目標未達。第二製造は目標達成となった。全体的にはほぼ目標並みの実績でした。 廃棄物の分別と、廃棄物を出さない事業活動の推進を目指し、全社で活動しました。 ※結果として、廃棄物が若干増加傾向である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生産量自体の減少 生産体制再構築 QC活動/小集団から成果を生み出す。(全員参加での創意工夫) 更に廃棄物排出抑制が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 製造不良の削減による材料ロス低減を推進し、廃棄物発生量の抑制を図る。 廃棄物の分別徹底とリサイクル推進により、環境負荷低減を目指す。 全社員参加による改善活動を継続し、廃棄物削減意識の向上を図る。
水使用量の監視	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、総務部が監視・測定。 	<ul style="list-style-type: none"> 本社の使用量増加の要因調査。必要に応じて措置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用量の増加要因を分析し、節水対策を実施する。
グリーン購入の推進と実施	<ul style="list-style-type: none"> グリーン購入対象品の検討を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 購入費用が増大してしまうとの課題あり。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境配慮型製品および再生材利用製品の優先購入を継続する。
化学物質使用量の管理	<ul style="list-style-type: none"> 第一製造課が定められた方法により管理された状態を維持している。 ※適切な管理・運営が出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> なし 	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質の適正使用と定期点検を実施し、安全な職場環境を維持する。
製品への環境配慮 環境負荷低減策	<p>エコアクション21のガイドラインに基づき、地球環境の環境保全活動を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ※生分解性樹脂商品を開発しており、2025年には新たに2アイテムの試作・試験施工を行った。 ※事業活動から生じる『環境負荷』の低減策を、他企業との連携を模索した。 2024年には、太陽光発電を導入して、自己消費による環境負荷低減を実現。 さらに第2工場でも運用を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 市場ニーズ 世界的ニーズ 	<ul style="list-style-type: none"> 生分解性樹脂製品の開発および市場評価を継続する。 SPS・PES製品など環境負荷低減につながる製品提案を強化する。 太陽光発電設備の有効活用を継続し、再生可能エネルギー利用率の向上を図る。 第2工場での環境負荷低減施策について検討を進める。

⑧ 環境関連法規等の遵守状況

保護環境	適用法令基準及び関連手順 等		届出・報告・管理が必要な施設、物質など	主な要求事項	遵守状況
地球環境	フロン排出抑制法	自主及び専門知識を有する者による点検	設備の簡易／定期点検	点検記録簿	適法
			充填量、回収量の記録	記録類の保管	
			漏えい量の算出・報告	経済産業省への報告	
			設備廃棄時の回収証明	記録類の保管	
騒音	騒音規制法	環境基本法 長野市公害防止条例施行規則 労働安全衛生法	定点騒音測定 (昼間65デシベル、夜間55デシベル以下) 自主規制	騒音発生施設の配置の改善、その他の技術的事項	適法
環境破壊防止	化管法 (PRTR法)	—	ホルムアルデヒド	使用量の把握、確認	適用済み
	毒物及び劇物取締法	—	ホルマリン 水酸化カリウム	取扱等に関わる管理全般	
作業環境	労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物	ホルムアルデヒド メタノール 水酸化カリウム	名称の表示	適法
		作業環境測定/評価基準 特定化学物質等障害予防規則 有機溶剤中毒予防規則	ホルムアルデヒド メタノール	作業環境測定の結果評価に基づいて、労働者健康を保持する	
廃棄物リサイクル	環境基本法	循環型社会形成推進基本法 自動車リサイクル法 容器包装リサイクル法	使用済み車輛/容器包装 等	リサイクルの推進	適法
	廃掃法	産業廃棄物保管基準 産業廃棄物委託基準	産業廃棄物管理票状況等報告書	委託契約書 産業廃棄物管理票の管理	
危険物	消防法10条他	危険物保管の指定数量以上の許可申請	引火性液体第二石油類	危険物の管理	適法
		危険物施設に関する届出、指定可燃物の指定数量の5倍以上の届出	指定可燃物(合成樹脂類)	危険物の貯蔵量の明確化	
		貯蔵所に於ける「ホルムアルデヒド」貯蔵の届出	ホルマリン水溶液	危険物の貯蔵量の明確化	
		有規則	メタノール		
電波	電波法	—	高周波利用設備の設置の許可申請	設備の機能維持管理	適法
電気	電気事業法	電気関係報告規則	PCB設備の保有届出	届出	適法
製品安全	製品安全規格 (UL規格)	アメリカ保険業者・安全試験所	指定製品に適用	製品の物性保証	対応済み

⑧ 環境関連法規等の遵守状況

保護環境	適用法令	基準及び関連手順	届出・報告・管理が必要な施設、物質など	主な要求事項	遵守状況
地球環境破壊防止	RoHS指令	EU加盟国施行令	使用禁止物質 (指定材種に適用)	顧客要求時、不使用証明発行	対応済み
	REACH規則	(EU連合)	化学物質の登録～使用制限 (指定材種に適用)	顧客要求時、不使用証明発行	対応済み
	chemSHERPA-CI	(JAMPアーティクルマネジメント推進協議会)	製品毎の「MSDS」等 (製品含有化学物質情報)	該当物質の含有の有無・含有量(成形品当りの濃度)	対応済み
環境全般	—	エコアクション21ガイドライン (2017年版)	—	エコアクション21ガイドラインへの適合	認証登録
プラスチック	プラスチック資源循環促進法	プラスチック資源循環戦略(国・政府) プラ使用製品設計指針 プラスチックの3R推進	—	プラスチックの有効活用 プラゴミの減量	法令遵守
	ポジティブリスト制度	食品衛生法(昭和22年法律第233号)	—	自己適合宣言	法令遵守

確認日： 2026年5月22日

遵守状況	評価
法規制通り遵守した	○

[違反・訴訟との有無]

1. 環境関連法規等への違反はありません。
2. 関係機関からの違反等の指摘はありません。
3. 訴訟はありません。
4. 尚、関係当局より違反等の指摘は過去3年間ありません。



【環境方針・目標、活動計画、環境経営システム等の変更の必要性】

1. 環境方針の変更に関して

2025年度においても、当社を取巻く環境関連法規制や顧客ニーズ、社会からの要請は引き続き変化している。当社では食品用器具・容器包装ポジティブリスト制度への対応を継続すると共に、環境負荷低減に資する商品開発および市場提案を推進してきた。また長寿命で繰り返し使用できるメラミン食器や更なる強靱性を持った素材の市場浸透に向け活動してきたほか、環境配慮型素材を活用した製品の普及を通じて、資源の有効活用と廃棄物削減に取り組んでいる。

また、森林保全や環境負荷軽減に貢献する生分解性プラスチック製品の展開を進めるなど、当社の事業活動そのものが環境課題解決への貢献につながるものと考えている。

当社を取り巻く市場や顧客からは、環境負荷低減や持続可能な製品への期待が引き続き高まっている。こうした要請に応えながら、当社らしいものづくりを通じて社会に貢献していくため、現在の環境方針は適切であり、変更の必要はないものとする。

2. 環境目標の変更に関して

2025年度は、当社の「第5次3か年計画(2025年～2027年)」の初年度として、各環境目標に基づく活動を推進した。現行の目標項目については、当社が取組むべき課題や方向性を概ね網羅していると考えており現時点での見直しの必要はないと判断する。

一方で、環境目標への取り組みを継続する中で、生産工程全体における資源活用や効率化の面では、更なる改善の可能性があると考えている。

特に、資源の有効活用を重要課題と位置付け、不良削減だけでなく、生産工程全体におけるムリ・ムダ・ムラの排除を推進していく。投入した資源をより有効に活用し、環境負荷低減と生産性向上の両立を図りながら継続的な改善活動につなげていきたい。

3. 環境経営システムの変更に関して

当社の環境経営システムは構築から10年が経過し、環境活動や改善活動も社内に定着していることから、現時点では有効に機能していると判断する。現時点で環境経営システムの大きな変更はないが、社会や顧客の要求変化を踏まえながら継続的な改善を進めていく。

【総括】

2025年度は第五次三か年計画の初年度として、環境目標達成に向けた取り組みを進めてきた。一方で、生産工程全体における資源活用や生産効率の面では、更なる改善の余地があると認識している。当社にとって環境負荷低減は社会的責任でなく、資源の有効活用、生産性向上、収益力強化につながる重要な経営課題である。

不良削減や歩留まり向上を進めると共に、業務改善の中に省エネルギー活動を組み込み、製造現場および間接業務における3M(ムリ・ムダ・ムラ)の排除を進めることで、環境負荷の低減と経営効率の向上を同時に実現していかなければならない。

今後も全社員参加による継続的な改善活動を通じて、環境負荷の低減と企業価値の向上につなげていく。

2026年6月8日

信濃化学工業株式会社

代表取締役 小野 大輔

再生可能エネルギーの活用状況(太陽光発電システム)



本社玄関に「発電状況」を確認することが出来るモニターを設置！

2025年度の発電実績

単位:kwh

2025年4月	9,097.4
2025年5月	9,948.0
2025年6月	9,300.3
2025年7月	11,885.8
2025年8月	7,790.3
2025年9月	7,895.0
2025年10月	6,303.3
2025年11月	4,394.9
2025年12月	3,346.9
2026年1月	3,385.8
2026年2月	5,705.2
2026年3月	8,013.8
年度合計	87,066.7

※ 年間 約 37,525 kg-CO₂ の二酸化炭素排出抑制の実績を生み出しています。

⑩ トピックス2

社員みんなで育てる花壇！ 緑と花を楽しめます!! (本社)



葉が青々と茂った桜の木！



桜の木にも多くの花がつけました！



玄関正面のツツジも元気!!



野生動物に攻撃され、弱りかけた芝桜！復活を目指します！



第三工場脇のハナミズキも元気いっぱい！



ラベンダーも大きく育ちました！

私たちは事業活動を通じてプラスチックの有用性を
更に高め、『持続可能な地球環境の実現』を
目指して、維持・改善に努めて参ります！



 **信濃化学工業株式会社**

〒381-0045

長野県長野市桐原 1-2-12

TEL:026(243)1115 FAX:026(243)1520

URL:<https://www.shinano-kagaku.co.jp>